

いかと考えられる。

このあたり“神戸市最後の秘境”と言われるだけあって六甲山が国立公園としては名ばかりの無秩序開発をやりほうだいの地である現状から見ればまだまだ自然が残っている。たゞ可成り交通も不便であるし神戸市がそのあたりの土地を買占めて“ごみ捨場”にしようとしているだけに数年を経ぶして様相は一変するであろう。反対運動はやっているが反対ばかりで無く限られた地域内での自然の温存方法の検討を同時に考えて貰う運動であってほし。この湿地にはハッチョウトンボを多産する。ヒメヒカゲとかヒメタイコウチの産の期待もあるが充分わかっていない。ヨツボシナガツツハムシ(フジから)、イカリヒメジンガサハムシのように神戸市内での産の余り個体数の多くない種が採集出来ている(後者は県下での記録も大変少いがこの地では多くいる。lex., 5-VI-1982, 11 exs., 13-VI-1982, leg.)。マヤサンオサムシも道路を歩行中のものが採集出来た。このあたりは冬期のオムムシ掘りでオオオサムシ、マイマイカブリを多く掘り出せたがクロナガオサの産の確認が出来ていない。以上記録として報告しておく。

末文で大変申し訳無いがこの地の調査に便宜を与えて下さった奥谷、福岡両先生並びに蜂谷氏に厚く御礼をのべさせて頂く。

キイロヒメテントウ神戸市内に産す (兵庫県甲虫相資料・122)

高橋 寿郎

キイロヒメテントウ *Scymnus (Pullus) syoitii* H. Sasaji, 1971 は宮本正一博士が福岡市の香椎で採集された♂♂、♀♀をタイプに原色図をつけて佐々治寛之博士により記載された種である(*Fauna Japonica, Coccinellidae*. pp.146-148, pl. VII, fig. 54, 1971)。

小さい種で(体長1.15-1.45 mm)、筆者が神戸市の鳥原で採集して佐々治博士に同定御願したものがこの種に該当するとのこと(lex., 16-VI-1975)。同博士によると原記載に使用された標本以外、小笠原産のものを知るだけの珍しい種だとのこと。勿論本州からも初記録になるし兵庫県下の初記録になる。たゞ残念なことに筆者の不注意でどのような状況で採集したか記憶に無くその棲息状況が全くわからない。さらに調査をしなくてはならないと思っている。

同定して下さった佐々治博士に厚く御礼申し上げる。尚標本は同博士の手許に保管されている。